

令和 5 年 5 月 31 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K02517

研究課題名（和文）第二次大戦後日本の教育再建と日系キリスト教

研究課題名（英文）Educational Reconstruction in Postwar Japan and Japanese American Christianity

研究代表者

吉田 亮（Yoshida, Ryo）

同志社大学・社会学部・教授

研究者番号：00220690

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：戦前期アメリカ日本人移民（日系人）の越境教育史に終止符を打った強制収容事件（または海外での戦争体験）が、戦後日本の教育史・キリスト教史（仏教史）にどのように越境の影響を与えたのかを究明しようとした研究である。研究成果として、戦後再建期宗教の役割についての先行研究において顕著に見られる「文明史的闘争」モデルの見方には限界があることを例示したことである。特にアメリカ・プロテスタントによる戦後再建への取り組みの姿勢には、「アメリカ型」を越える「自由」「民主主義」を実現する実験場としての戦後日本の場という見方が見られる。仏教界でもそれに呼応する動きが見られることである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

占領期日本における宗教の役割について新たな知見を提示した。GHQ/SCAPの視点から「文明史的闘争」史観に依拠するものではなく、現場の宗教者、特にキリスト教徒と仏教徒の思想や実践活動からボトムアップの史観を再検討するものである。特に、「自由」「民主主義」とかかわる、日本国民の主体重視と主体発揮に寄り添い続ける努力が重要である。さらに、このような史観は北米での日系人排斥や強制収容体験との関係で米国キリスト教徒や日系宗教者が習得したとされる反人種主義・反帝国主義の認識であり、そうした認識が日米関係や戦後の日本再建にどのように影響を及ぼしたのかという、越境史的問いに対するひとつの返答でもある。

研究成果の概要（英文）：This is a study that aiming at demonstrating how the forced relocation of Japanese immigrants (Japanese-Americans) in the pre-war period, which marked the end of their transnational educational history, and the experience of war overseas, have had a transnational impact on Japan's post-war educational and Christian (Buddhist) history. As a research outcome, the study demonstrated the limitations of the "civilizational struggle" model that is prominently observed in previous research on the role of religion in the post-war reconstruction period. Particularly, the study revealed that there is a perspective that regards post-war Japan as an experimental field to achieve "freedom" "democracy" beyond the "American style" in the attitude of American Protestants towards post-war reconstruction. This perspective is also observed in the Buddhist community.

研究分野：日米越境教育史

キーワード：日系アメリカ人 強制収容 キリスト教 仏教 戦後日本 教育再建 自由 民主主義

1. 研究開始当初の背景

本研究は、科研助成事業(2000～)として進めてきたアメリカ日系移民(日系人)による戦間期及び戦中期の越境教育活動に関する研究成果を踏まえ、戦後期に再構築される越境教育の特徴を解明することを目的として始めた。本研究が刮目するのは、アメリカ日系人教育・宗教史において転換点となった「強制収容体験」が戦後日本の教育・宗教再建に及ぼした影響である。「強制収容体験」はアメリカ社会全体にとって「民主主義」「自由」「公平性」「人種主義」の意味を問う重大事件であった。この体験に直接・間接に大きく関与した日本人、日系人、アメリカ人の中で、占領期日本の教育再建に直接関与した事例が多く存在する。戦争のために米国滞在を余儀なくされた日本人キリスト者エリート、日本人・日系人仏教者達、アメリカ人元日本宣教師や牧師他であり、彼(女)等はGHQの教育政策、キリスト教系大学の再編、反核・平和教育活動に深く参画し、牽引した事例もあった。従来の占領期研究では、教育政策や宗教政策の研究は進められているが、宗教教育(キリスト教)政策の理念や実態については限定的であるといっても過言ではない。アメリカ・プロテスタントによる戦後日本復興計画や国際基督教大学創立の経緯、在日宣教師 C.B.デフォレストの研究他においても、本研究のように日米両国の教育・宗教史を繋ぐことで占領期の教育再建にアプローチする研究ではない。

2. 研究の目的

特に、第二次大戦後の占領期日本(1945～52年)において展開された教育再建に関わる理念および実践に関与した日米人キリスト者(さらには日系宗教者)が果たした役割を明らかにすることを目的にしていた。ここで言う日米人キリスト者の多くは、第二次大戦時に強制収容の体験を余儀なくされたアメリカ日系人と関係を持った人々である。キリスト者達(さらには日系宗教者)による戦後日本の教育再建への関与を検討することで、戦前期アメリカ日本人移民(日系人)の越境教育史に終止符を打った強制収容事件(または海外での戦争体験)が、戦後日本の教育史・キリスト教史(仏教史)にどのように越境的影響力を与えたのかを究明できると考えた。その後、強制収容事件に関与していない事例も含めることで、その事件の意味合いをクローズアップさせようとも考え、現在に至る。

3. 研究の方法

本研究では、個別事例を検討することで研究をすすめていった。吉田は、北米外国伝道会議及び湯浅八郎と戦後創設されたキリスト教高等教育機関である国際キリスト教大学をテーマに取り組んだ。物部は、日本最大のキリスト教高等教育機関である同志社大学の戦後再建へのオーティス・ケーリーの関与を事例とした。竹本は、在日アメリカ人宣教師ダーリー・ダウンスによる戦後日本語教育の再建に着目した。田中は、キリスト教高等教育機関による戦後農村の再建への取り組みを同志社大学を事例に検討した。高橋は、戦前期の北米・ハワイ日系二世教育に関与した常光浩然による戦後日本仏教の再建を事例とした。

4. 研究成果

(1) 占領下の宗教に関する先行研究において顕著に見られる「文明史的闘争」モデルを前提に、宗教特にキリスト教の役割を位置づけようとする見方だけでは解釈できないことがわかってきた。そのような実態は、国際キリスト教大学創設に向けた日米両プロテスタントの折衝において日本側主導で終始展開されたことや、同志社の再建に着手したケーリーが日本人学生の主体発揮に腐心し続けたこと、訪日宣教師の日本語教育に長期間に亘って関与したダウンスの日本人の母語に対する強い思いに表現されている。

(2) 教育再建即ち人間形成の場は学校現場に限定されず、多種多様な現場で展開され、戦後日本国民の人間形成に対して重要な問題提起をしたことがわかる。そのような実態は、同志社が着手した農村伝道において民主化即ち農業従事者の主体確立のために寄り添い続ける努力や、常光が超教派主義や平和実現のための国際連携を提唱することで仏教界の主体回復に専心したところに提示されている。

(3) 戦前・戦時下・戦後の活動の連続性について、特に米国の日系人排斥や強制収容の事件が、一部宗教者達による戦後日本の教育再建へのアプローチに影響を与えていると考えられる。国際キリスト教大学創設に関与した日米プロテスタント代表中には強制収容の直接関与した人々が多く存在していた。同志社の農村伝道に関与した有賀鐵太郎や常光は北米日系移民プロテスタントや仏教徒を支援する活動に関与していた。

総じて、社会的周縁者の主体を重視し、主体発揮に寄り添う姿勢に共通点がみられた。排日や強制収容の体験が米国プロテスタントや日系宗教者に反人種主義・反帝国主義の認識を深めたことはよく知られているが、そのような認識が日米関係や戦後日本の復興に及ぼした影響についての研究はあまりみられない。本研究は従来等閑視されてきた、戦後日本国民の主体形成への宗教の影響について、新知見を提示できたと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 吉田亮	4. 巻 70
2. 論文標題 第二次大戦期北米外国伝道会議と日系人の再定住・統合－在米日系人プロテスタント史と戦後日本プロテスタント史を繋ぐ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 キリスト教社会問題研究	6. 最初と最後の頁 33, 62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉田亮	4. 巻 71
2. 論文標題 北米外国伝道会議と日本基督教団の協力関係、1945～1947年－「自主性」をめぐる－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 キリスト教社会問題研究	6. 最初と最後の頁 1, 36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 吉田亮	4. 発行年 2020年
2. 出版社 現代史料出版	5. 総ページ数 207
3. 書名 変容する二世の「越境性」 - 1940年代日米布伯の日系人と教育	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	田中 智子 (Tanaka Tomoko) (00379041)	京都大学・教育学研究科・教授 (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	物部 ひろみ (Monobe Hiromi) (10434680)	同志社大学・グローバル地域文化学部・准教授 (34310)	
研究分担者	竹本 英代 (Takemoto Hideyo) (50294484)	福岡教育大学・教育学部・教授 (17101)	
研究分担者	高橋 典史 (Takahashi Norifumi) (50633517)	東洋大学・社会学部・教授 (32663)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関